

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

本学の教育理念は、学校法人濱名山手学院の建学の精神を原点としている。昭和25年に兵庫県尼崎市に設立された愛の園幼稚園は「以愛為園（愛を以て園と為す）」を建学の精神とし、他人に対する人間愛を育む学園であることをめざし、子どもたちには他人に対する思いやりを重んじ、教職員には教育愛あふれる学園づくりを求めた。

この建学の精神に基づき、その精神を大学教育で具現化するために、平成10年の開学時に制定したのが「関西国際大学の教育の理念」である。教育理念では「関西国際大学は、世界的視野にたち人間愛にあふれ、創造性豊かで、行動力のある人間の育成をめざす知性あふれる学問の場である」と規定し、以下の3つを具体的な教育理念として掲げている。

1. 自律できる人間であろう
自己に厳しく、たえず努力し続ける人間になろう。
2. 社会に貢献できる人間であろう。
自ら創造し、積極的に行動する人間になろう。
3. 心豊かな世界市民であろう。
世界の人々と共に生き、互いを高め合う人間になろう。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

グローバルな視野に立った教養を持ち、外国語の運用能力およびコミュニケーション能力を身に付けた国際社会で活躍できる人材を育成する。国際的にコミュニケーションの主要言語である英語の基本的な運用能力を身につけ、国際地域の文化や社会に関する理解を深め、国際社会でのコミュニケーション能力を身につけていく。それらの能力を現場での体験学習を通して活用していくことにより、課題発見・解決力を修得する。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

本学の設置母体である学校法人濱名山手学院は、「以愛為園（愛を以て園と為す）」の精神のもと、幼稚園及び幼稚園教員養成所を設立し、以来、「愛」とは相互愛で有り、人との関わりは、相互に愛と信頼があってはじめて成立するものであるという考えにより発展し、現在に至っている。これが大学としての教育理念の根幹をなすとともに、初等・中等教育の教員養成の理念ともなっている。

本学の教育理念については、「以愛為園」の精神を具現化する行動目標を次のように示している。すなわち、相互の愛と信頼が成立するためには、まず、個人が自律した人間として成長しなければならず、自己に厳しく、たえず努力し続ける人間であることが求められる。そして、自己の外の世界に積極的に働き掛け、社会に貢献することを志す存在であろうとし、そのために、世界の人々とともに生き、互いを高め合う「世界市民」としての自己を形成していくことが求められる。

教員養成の構想に照らし合わせてみれば、専門職としての自律性を確保しつつ、さらに自己の職能を高めていくため、自らが学び続ける学習者となりうる教員像が目指すべき目標となる。同時に、他者との共感と協働の意識を育て、児童生徒やその保護者および同僚教員や学校を取り巻く地域住民との相互信頼を基礎として日々の教育活動にまい進できる教師、グローバルな問題関心にたえず導かれながら、異文化理解を通じて人間文化の多様な価値の在り方を認められるような教師を理想とし、その理想に一步一步近づいていくための日々の努力とその組織的な学びの体系が、教員養成課程の要諦となる。これが、本学における教員養成の理念である。

本学は、建学の精神を活かし、グローバルな視野に立った教養と専門的知識・技術を修得し、安全な社会やコミュニティづくりに向けて総合的に活用できる人材を育成することを目的としている。その教育目標は、「自律的で主体的な態度（自律性）」「社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）」「多様な文化や背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）」「問題発見・解決力」「コミュニケーションスキル」「専門的知識・技能の活用力」を総合的に活用できる人材の養成であ

る。これらの教育目標を具現化する方策として、「KUISs学修ベンチマーク」の制定や「グローバルスタディ」といったプログラムが位置づけられている。

「KUISs学修ベンチマーク」のルーブリックにより、学生自らが、教育研究活動などの状況について点検と評価を行うことで、将来、学生が学校教員として教壇へ立った折には、自己点検や自己評価を行うことへ援用することが可能である。

「グローバルスタディ」は、卒業までに「交換留学」「海外サービ斯拉ーニング」「海外フィールドスタディ」「海外インターシップ」等のプログラムを選択するものである。これらは、世界の人々の多様な価値観を理解し、自ら考え、行動できる人材育成のための「体験」を中心とした学修プログラムである。教育現場では、海外から来日した子どもや帰国した子どもの教育が大きな課題となっている昨今、本プログラムを通してグローバルな視野に立った視点から海外の教育について学ぶ機会ともなっていることから、今日の教育的課題へアプローチすることが期待できる。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

グローバル学科では、グローバルコミュニケーション学科等の従前の教職課程を継承し「グローバル社会で活躍できる人材を養成することをめざし、自ら積極的に行動し、体験を通して社会との関わりの中で考え、行動することができる能力を身につける」という教育目標を掲げている。この具体的な目標として、KUISs学習ベンチマークに掲げたグローバルな環境に適応し社会に貢献するため必要な基礎的な力を身につけることに加えて、専門性を生かし 実用的な場面での英語運用能力、多様な文化を理解し尊重できること、協働が必要な活動において、効果的にコミュニケーションをとる能力を総合的に活用できることをめざしている。

この学科の教育目標を実現する進路の1つとして、中学および高校の英語教員を捉え、教職課程を置いている。上述の教育目標にあるグローバル社会を見据え、多様な文化を受け入れる柔軟性を持ち、特に英語でのコミュニケーション能力をもった教員を輩出することが期待できる。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

< 中学英語 >

2017年4月施行の学習指導要領により、「英語が使える日本人」、すなわち英語でのコミュニケーション能力が教員には今までも増して求められている。学科のカリキュラム中では、英語関連科目は原則英語で実施され、学生も英語使用が求められている。グローバル学科においては、主要科目の多くを英語で行い、学生自身が「英語漬け」の環境を体感し、まず英語の基礎力を鍛える。また、初等・中等教育でも求められるアクティブラーニングの手法を活用したグループワークや発表の機会を多く設定することで、英語使用に慣れ、コミュニケーション能力を高めるようにしている。これらのことを素地として、教員を目指す学生には教授法や指導に当たって必要な知識等を学ぶ科目を配置しているので、教職志望の学生は英語で行う授業に対して多くの実体験や具体的なイメージを持って臨むことができるようになってきている。また、多様性理解を推進するため、2年次後期に海外研修を取り入れ、実際に足を運ぶことによって実感できる異文化理解を推進している。さらにはインターンシップやボランティア活動、交換留学等の機会を多く提供し、学問と学外での活動を結びつけ、広い視野を持った学生を養成するよう努めている。これらの学習経験、特にアクティブラーニングや海外研修を学生自身が体験することによって、求められる教員像に合致し、中学生を指導できる教員を養成することが学科の社会的使命の1つと考える。

< 高校英語 >

2017年4月施行の学習指導要領により、「英語が使える日本人」、すなわち英語でのコミュニケーション能力が教員には今までも増して求められている。特に高校では「英語で授業を行う」ことが求められている（第3款 第4項）が、学科のカリキュラム中では、英語関連科目は原則英語で実施され、学生も英語使用が求められている。グローバル学科においては、主要科目の多くを英語で行い、学生自身が「英語漬け」の環境を体感し、まず英語の基礎力を鍛える。また、アクティブラーニングの手法を活用したグループワークや発表の機会を多く設定することで、英語使用に慣れ、コミュニケーション能力を高めるようにしている。これらのことを素地として、教員を目指す学生には教授法や指導に当たって必要な知識等を学ぶ科目を配置しているので、教職志望の学生は英語で行う授業に対して多くの実体験や具体的なイメージを持って臨むこと

ができるようになっている。また、多様性理解を推進するため、2年次後期に海外研修を取り入れ、実際に足を運ぶことによって実感できる異文化理解を推進している。さらにはインターンシップやボランティア活動、交換留学等の機会を多く提供し、学問と学外での活動を結びつけ、広い視野を持った学生を養成するよう努めている。これらの学習経験をもとに、将来教員としてグローバルな視野を持って高校生を指導することができる。

グローバル学科での教育目標が、求められる教員像の条件に合致し、卒業後の進路として高校の英語教員を目指す教職課程を置き、ニーズを満たす教員を輩出することが学科の社会的使命の1つと考える。

様式第7号イ

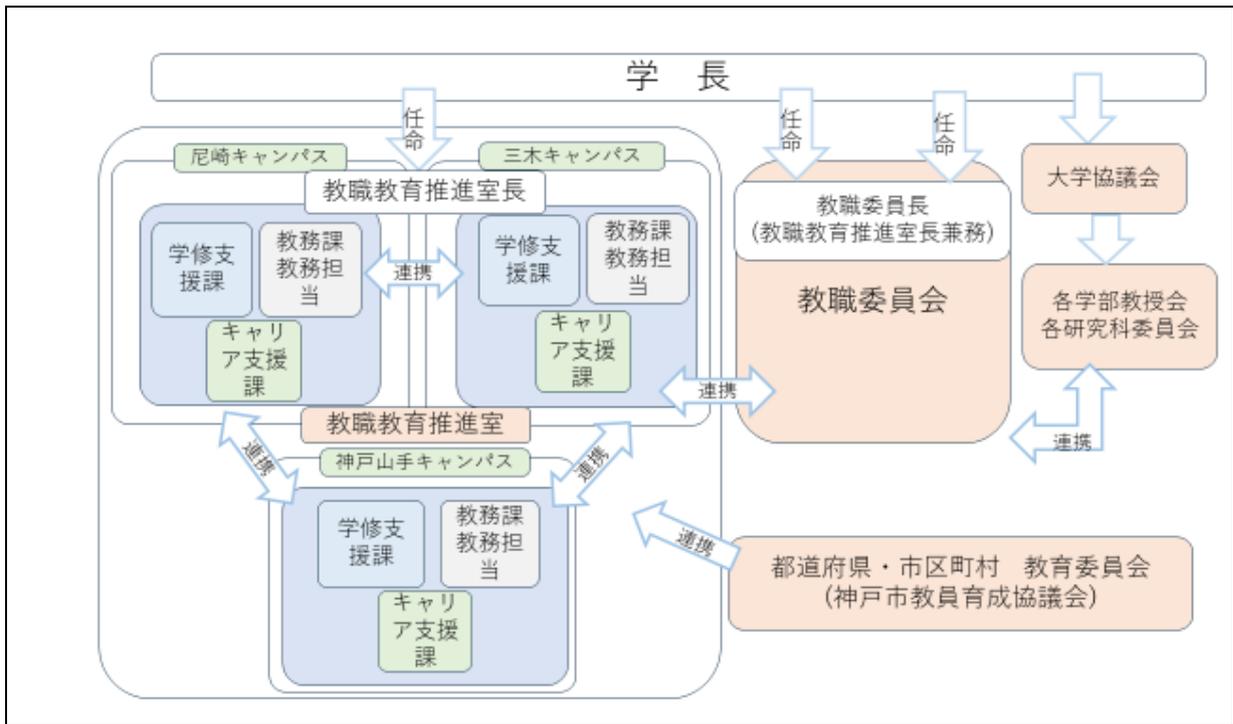
I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職教育推進室
目的：	教員や保育士を目指す学生のサポート、学科目編成の立案、教育実習、介護等体験の指導、教育職員免許上の申請手続き及び下付等についての事項を執り行い、教育理念である「以愛為園（愛を以て園と為す）」の精神のもとに自らが学び続け、人々と信頼関係を築き、多様な価値のあり方を認め、社会に貢献できる、専門職としての教員・保育士養成を行うことを目的とする。
責任者：	教職教育推進室長
構成員（役職・人数）：	室長を含む計7名
運営方法：	<p>本学は、尼崎キャンパスと三木キャンパスと神戸山手キャンパスの3カ所のキャンパスからなる。教職課程の運営は学長が任命した教職教育推進室長を頂点として、各キャンパスに所属している教職委員が、授業や実習に関する業務を行っている。また、それぞれのキャンパスには、課程を運営するための事務組織として、教職教育推進室を設置している。教職教育推進室長は、学修支援課を中心に、カリキュラムや講義系の授業に関する業務を行う教務係と、介護等体験や教育実習に関する事務を行う学修支援室、教員採用に係る事務を行うキャリアセンターからなる。</p> <p>教職課程の全体に関わる問題や検討事項については、毎月定例で開催される教職委員会を、両キャンパスを結ぶ遠隔会議システムを利用して合同で実施し、問題解決や意思決定を図っている。</p> <p>教職委員会では、1) 教職に関する学科目編成の立案に関する事項、2) 教育実習の指導、運営に関する事項、3) 教育職員免許状の下付に関する事項等、教職センターの運営に必要な事項が審議される。</p>

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図

様式第7号イ



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

① 「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」

教員研修分野における、共同実施事業、独立行政法人教員研修センターに採択

② 尼崎市、伊丹市、西宮市、神戸市等の教育委員会と連携協力に関する協定

尼崎キャンパスでは、相互の教育事業、教育活動の充実、発展に寄与することを主な目的として、学校園等の教育現場を体験する機会や、教育活動及び地域の各種活動への支援等について、各市の教育委員会と協力体制を取っている。

③ 大学院心理臨床センターにおける無料相談会の実施

三木市教育委員会の後援を受け、子育て支援の一環として、保育園・幼稚園・小学校・中学校の児童・生徒、または、その保護者を対象に、無料の相談会を開催している。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称： 教育保育インターンシップ (インターンシップ)

連携先との調整方法： 包括協定に基づき、学科及び科目担当者が調整

具体的な内容： インターンシップのうち、特に、教育現場を対象としたインターンシップとして、教育保育インターンシップを設置している。教育保育インターンシップはⅠ～Ⅲまでが用意されており、介護等体験等が開始される前の、1年次から3年次において実施される。「教育保育インターンシップⅠ」においては、年間を通して、職場体験の基礎・基本を学ぶ。・保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校などの概要と、そこでの1日の生活内容、教師や保育士としての仕事の内容を学ぶ。さらに、社会人としてのマナー、法令遵守、守秘義務などについての理解を深める。

インターンシップⅡ、Ⅲにおいては、実際に各職場に出向き業務活動を行う。定期的に、大学で講義を行うことや、受け入れ先の種別に集まり、各職場での業務活

様式第7号イ

動や各自のテーマに沿った振り返りを行わせながら、体験と知識の総合化を図る。

②

取組名称： サービスラーニング

連携先の調整方法： 協定に基づき学科や科目担当者が調整

具体的な内容： 教職を目指す学生のボランティア活動や教員が専門的立場から各種委員会、審議会等へ参加することや教育相談の実施などにより、地域の教育課程の解決に協力する。

研修会講師の派遣、大学主催の子ども・保護者向け教室、教育研修講座の開催、大学施設の開放、免許更新講習の実施、学校との共同研究など、地域教育の充実推進に連携協力を行う。

③

取組名称： サービスラーニング 地域のアフタースクールでの活動

連携先の調整方法： コーディネーターと科目担当の教員がカウンターパートナー(地域の受入先)と調整

具体的な内容： 学生の社会的実践力を高めるための『教室での専門的な学び』と『社会貢献活動』との統合を図る取組を進めている授業プログラム(サービスラーニング)の中において、地域のアフタースクールでの活動をしている。サポート要員として毎週参加し、子どもたちとの関わりの中で生じた疑問や課題などを取り上げ、専門知識との関連づけを行いながら、学生の活動の質を高めるために授業でふりかえりを実施している。

④

取組名称： 子育て支援センターの設置、運営

連携先の調整方法： 運営者と担当教員間との調整

具体的な内容： 専門相談員による、子どもの言葉や体の発達の遅れが気になっている保護者の相談、集団での友達とのトラブルなどが絶えない子どもの保護者の悩み相談、医師により診断を受けているが、育て方、日常生活での具体的なかわり方がわからず悩んでいる保護者へのアドバイス、保育所、幼稚園、学校などで「苦戦をしている」子どもたちへのサポート、保育、療育等の指導方法の具体的なアドバイスを提供する。

⑤

取組名称： スクールサポーター事業

連携先の調整方法： 教育委員会の要項に従い、大学は学生の募集を行う。指定様式により、希望した学生の登録申込を大学から委員会に提出する。派遣を希望する学校は登録者から活動に応じた学生を選び、学校より大学に依頼する。決定後、学校から教育委員会へ派遣申請を行う。

具体的な内容： 教員志望の学生を園や学校に配置し、授業の補助および学級活動・行事の補助等を行う。

Ⅲ. 教職指導の状況

様式第7号イ

入学者に対する教職課程のガイダンスは、新入生対象のオリエンテーションから始まり、2年次当初のガイダンスでさらに細かな履修指導を行う。2年次開始時に、中高教員の教職課程履修を希望する学生に絞って、教育実習から教員採用試験までを当面のゴールと想定した履修計画を意識させる。

免許法に基づく科目履修要件と教師に求められる資質能力をまず展開して、在学中の単位取得、介護等体験および教育実習等の実習先選定の手続き等、学生が自主的に学習スケジュールを管理できるように指導する。

教科教育法の進展に合わせて、授業実践のシミュレーション機会を適宜設け、教材研究・指導案作成・板書計画など授業技術と教育方法に関わる実践の指導は、教育実習を担当する専任教員が学生の求めに応じて、オフィスアワーの時間も活用して追加相談に乗る。教員採用試験に向けたアドバイスも、専任教員が学修支援センターにて相談に応じている。

様式第7号ウ

<グローバル学科> (認定課程: 中学英語)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学で学ぶ内容について見取り図を描きながら、4年間の学習計画を立てられるようになること。専門外の教養領域にも幅広く関心を持ち、自己の知的キャパシティの拡大に意欲をもつこと。正課・正課外を問わず、様々なグループワークに積極的に参加して、共同作業の意義と成果を自己分析できるようになること。学科の基礎科目を履修し、英語の基礎力を培うこと。また、教職の入門として、教育学概論の講義を通して、教育学の基本的知識を習得すること。
	後期	前期に引き続き、学科の専門科目の履修により、英語力を培いながら英語でのコミュニケーションスキルを磨く。また英語での授業の枠組みや方法などを体験的に学ぶ。専門外での教養領域での学習を深めつつ、教師に求められる能力の一つとして、幅広い教養を身につける。自己分析能力を身につけ、自己の到達点を適正に省察できるようになること。
2年次	前期	教職課程独自の科目履修が本格的に始まる。特に、教職概論等の教育の基礎的理解に関する科目を通して、教職の意義を理解し、自己の目指す教師像を明確にすること。専門科目を通して英語の運用能力を向上させること。英語科教育法等の学習を通して、教職に必要な能力的資質について考察し、使命感、適性、また、英語の運用能力、一般教養等の各分野で自己の到達水準を正しく把握し、以後の学習計画に反映させて具体的学習計画を立てられるようになること。
	後期	実際に海外研修の場でさらに運用能力を磨き、また、異文化の中で生活・学習することで課題発見・解決力を身につけ、多角的な視野を養成する。体験を通して、教員として必要な英語運用能力を磨き、異文化理解を深めると共に、視野を広げる。
3年次	前期	学科の専門科目や教養的内容の科目を履修し、2年後期での海外体験で得た多角的な視野からの幅広い教養、より高い英語運用能力、特にアカデミックな英語運用能力を身につける。介護等体験が併せて実施されるため、事前学習により体験活動への備えを行いつつ、教育の基礎的理解に関する科目、教科に関する科目、教職に関する科目の学習により、教職で求められる知識や心構え等を学び、生徒指導や中学校入学前の外国語学習にも理解を深める。
	後期	教育実習を次学期に控え、英語で授業を行える英語運用能力を身につける。また、これまでの教職課程の学習を踏まえ、生徒の発達段階を理解し、教育制度や生徒指導、学級経営に必要な知識を身につけておくこと。学習指導要領に定められている教授すべき内容を踏まえ、特に中1レベルは小学校からのつながりに配慮して、教材を工夫し授業を組み立てられるようになっていること。
4年次	前期	教育実習が中心になる。学校現場での実体験を通して教職の意義を再確認する。教材研究、授業実践、生徒指導、学級経営等に直接関わり、校務を分担することで、教職を実際に体験し、経験を積むこと。これら現場での実体験を通して、自らの適性を見極め、実習終了時点における強み弱みを自己分析して、教員採用試験に向かう態勢を整えること。
	後期	教育実習を終え、教員採用試験も一段落している。教職実践演習を通して、中学校教員として適切に職務が実践できる資質能力の確認と自己評価を行う。自分の得意・不得意な分野を認識し、卒業後、引き続き学ぶべき事柄について見通しを立て、具体的な目標と学習計画を立てられるようになること。

様式第7号ウ

<グローバル学科> (認定課程: 高校英語)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学で学ぶ内容について見取り図を描きながら、4年間の学習計画を立てられるようになること。専門外の教養領域にも幅広く関心を持ち、自己の知的キャパシティの拡大に意欲をもつこと。正課・正課外を問わず、様々なグループワークに積極的に参加して、共同作業の意義と成果を自己分析できるようになること。学科の基礎科目を履修し、英語の基礎力を培うこと。また、教職の入門として、教育学概論の講義を通して、教育学の基本的知識を習得すること。
	後期	前期に引き続き、学科の専門科目の履修により、英語力を培いながら英語でのコミュニケーションスキルを磨く。また英語での授業の枠組みや方法などを体験的に学ぶ。専門外での教養領域での学習を深めつつ、教師に求められる能力の一つとして、幅広い教養を身につける。自己分析能力を身につけ、自己の到達点を適正に省察できるようになること。
2年次	前期	教職課程独自の科目履修が本格的に始まる。特に、教職概論等の教育の基礎的理解に関する科目を通して、教職の意義を理解し、自己の目指す教師像を明確にすること。専門科目を通して英語の運用能力を向上させること。英語科教育法等の学習を通して、教職に必要な能力的資質について考察し、使命感、適性、また、英語の運用能力、一般教養等の各分野で自己の到達水準を正しく把握し、以後の学習計画に反映させて具体的学習計画を立てられるようになること。
	後期	実際に海外研修の場でさらに運用能力を磨き、また、異文化の中で生活・学習することで課題発見・解決力を身につけ、多角的な視野を養成する。体験を通して、教員として必要な英語運用能力を磨き、異文化理解を深めると共に、視野を広げる。
3年次	前期	学科の専門科目や教養的内容の科目を履修し、2年後期での海外体験で得た多角的な視野からの幅広い教養、より高い英語運用能力、特にアカデミックな英語運用能力を身につけること。教育の基礎的理解に関する科目、教科に関する科目、教職に関する科目の学習により、教職で求められる知識や心構え等を学び、また、高校までの英語教育すなわち小学校・中学校での学習項目や指導方法にも理解を深める。
	後期	教育実習を次学期に控え、英語で授業を行える英語運用能力を身につける。また、これまでの教職課程の学習を踏まえ、生徒の発達段階を理解し、教育制度や生徒指導、学級経営に必要な知識を身につけておくこと。また、学習指導要領に定められている教授すべき内容を踏まえて、高校生に合った教材を工夫し授業を組み立てられるようになっていること。
4年次	前期	教育実習が中心になる。学校現場での実体験を通して教職の意義を再確認する。教材研究、授業実践、生徒指導、学級経営、進路指導等に直接関わり、校務を分担することで、教職を実際に体験し、経験を積むこと。これら現場での実体験を通して、自らの適性を見極め、実習終了時点における強み弱みを自己分析して、教員採用試験に向かう態勢を整えること。
	後期	教育実習を終え、教員採用試験も一段落している。教職実践演習を通して、高校教員として適切に職務が実践できる資質能力の確認と自己評価を行う。自分の得意・不得意な分野を認識し、卒業後、引き続き学ぶべき事柄について見通しを立て、具体的な目標と学習計画を立てられるようになること。 また、高校生に対する進路指導に必要な情報の収集や校務等について、他の教職員と協働できる協調性を身につけていること。

様式第7号ウ（教諭）

<グローバル学科>（認定課程： 中学英語）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期	教育学概論	英語スピーチで語る現代世界Ⅰ		英語コミュニケーションⅠ	学習技術	
		発達心理学	英語ディベートで知る現代世界Ⅰ		生涯スポーツⅠ		
			英語学		ICTリテラシー		
			英文法と英音法				
	集中		英米文学概論				
	後期			英語スピーチで語る現代世界Ⅱ		英語コミュニケーションⅡ	
				英語ディベートで知る現代世界Ⅱ		生涯スポーツⅡ	
						日本国憲法	
	集中			ボランティア論			
	2年次	前期	英語科教育法Ⅰ	英語スピーチで語る現代世界Ⅲ			
教職概論			英語ディベートで知る現代世界Ⅲ				
特別支援教育基礎			英語音声学				
教育相談			英語で読む世界のニュースⅠ				
集中		総合的な学習の時間の指導法					
		教育課程論					
後期		英語科教育法Ⅱ	異文化コミュニケーション				
		学校経営論	英語で読む世界のニュースⅡ				
3年次	前期	英語科教育法Ⅲ		ボランティア実習			
		特別活動の指導法		地域防災減災論			
	後期	英語科教育法Ⅳ	教育方法論				
		生徒・進路指導論					
	集中	道徳教育の指導法					
4年次	前期	教育実習Ⅰ					
	後期	教職実践演習(中・高)					

様式第7号ウ（教諭）

＜グローバル学科＞（認定課程：高校英語）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期	教育学概論	英語スピーチで語る現代世界Ⅰ		英語コミュニケーションⅠ	学習技術	
		発達心理学	英語ディベートで知る現代世界Ⅰ		生涯スポーツⅠ		
			英語学		ICTリテラシー		
	集中		英米文学概論				
	後期			英語スピーチで語る現代世界Ⅱ		英語コミュニケーションⅡ	
				英語ディベートで知る現代世界Ⅱ		生涯スポーツⅡ	
				多文化共生論			
	集中					日本国憲法	
				ボランティア論			
2年次	前期	英語科教育法Ⅰ	英語スピーチで語る現代世界Ⅲ				
		教職概論	英語ディベートで知る現代世界Ⅲ				
		特別支援教育基礎	英語音声学				
		教育相談	英語で読む世界のニュースⅠ				
	集中		総合的な学習の時間の指導法				
			教育課程論				
	後期	英語科教育法Ⅱ	異文化コミュニケーション				
		学校経営論	英語で読む世界のニュースⅡ				
集中				自然と災害			
3年次	前期	英語科教育法Ⅲ			地域防災減災論		
		特別活動の指導法					
	後期	英語科教育法Ⅳ	教育方法論				
		生徒・進路指導論					
	集中				道徳教育の指導法		
4年次	前期	教育実習Ⅰ					
	後期	教職実践演習(中・高)					